

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月7日

学校法人聖公会栄光学園聖ヤコブ幼稚園

園長 長尾 晶子

学校関係者評価委員会

1. 本園の教育目標

- ・ 神さまにも人にも愛される子どもたち
- ・ お祈りや遊びを通して五感を働かせながら様々な体験をし、神さまの愛を感じながら人との関わり方や人を思いやることを学び、心の成長へと繋げていく。

2. 本年度重点的に取組目標・計画

- ・ 教育方針でもある神様の存在をより深く学び、工夫しながら日々の生活の中で子どもたちの心に伝えていく。
- ・ 一人ひとりの子どもたちの共通理解と幼稚園での教育が小学校以降の学習に繋がって成長して行くため、幼児期の終わりまでに育つ10の姿の理解をより深め、共有して教育の接続を図る。
- ・ 一人ひとりが様々な感情を味わえるように遊びや活動を進めるとともに、子どもたちがより主体的になるよう援助をおこなう。

3. 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	取組み状況	取組みによる評価	評価
1	キリスト教教育でもある聖書を学び、保育に生かす	聖書を読み理解を深め、毎日のお祈りの中で少しずつ子どもたちに教えていくことができた。	子どもたちはいつも興味深く聖話を聞いていたので、今後は先生同士で学ぶ機会を設けてレベルアップに努めたい。	B
2	各クラスで遊びや活動の中に10の姿があるのかを振り返り、偏りのない保育を実践する	遊びの中で子どもたちの自主性を大切にしながら、製作コーナーを作ったり体を動かす場所を作るなど、偏りのない活動を心掛けた。	年間を通してバランスのとれた10の項目を考えると、非認知能力を高めるためにも目に見えないものを育てる意識も大切であると気付いた。	A
3	一人ひとりの子どもたちの感情を理解し、援助する	自分の気持ちが言えるようになってきたが相手の気持ちを理解することができず、教師がお互いの気持ちをきいてあげた。	より感情を理解するため、その子の置かれている背景を理解し信頼関係を深めることも大切。	A

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4.総合的な評価

評価	理由
A	キリスト教育を学ぶ機会にしたものの、経験年数の差があり目標達成には至らなかった。その都度振り返りが必要だった。2, 3の項目は協力して学びを深めることができた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5.取組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	キリスト教教育でもある聖書への学びをより深め保育に活かす	聖書への理解がまだまだ不十分なところがあるので、聖書を学ぶ時間を設け、保育の中で聖話を伝えられるようにする。
2	他の教師のやり方や意見を取り入れ、自身の保育の質を高めていく	保育の質を高めていけるように園内で公開保育を実践し、教師が共に学び合う機会を取り入れる。

6.学校関係者評価委員会の評価

- 園児一人ひとりにしっかり寄り添い、専門的知見で援助していることが伝わり、子どもの成長にとってとても好ましい環境だと思う。
- キリスト教教育については、あまり難しく考えずに日々お祈りするということと、聖書に基づいた絵本や聖歌、クリスマスやイースター等折々の礼拝でいいと思う。
キリスト教に接したことのない先生も、この幼稚園で礼拝に参加していただくことでキリスト教を少し感じ取っていただければと思う。
- 先生方が子どもたちにとって特に重要な非認知能力を日々考えながら、キリスト教育である聖書や10の姿を通して、一人ひとりの子どもたちの気持ちに寄り添いながら、子どもの教育に一生懸命取り組んでいて子どもたちをととても大切にしていると感じました。
- 先生方が定めた取組目標に真摯に向き合う姿が十分に感じられた。
- 今年度から委員会に参加させていただき、私も学ばせていただきました。
子どもにとって幼稚園生活や幼稚園の先生は初めての社会でいつまでも心に残るものです。来年度もどうぞ頑張ってください。